

## 平成25年度科学技術人材育成重点枠の成果と課題（【②海外連携】）

① 研究開発の成果	
<p><b>①定常的な海外連携による共同調査研究・発表・フィールドワークの実施の成果</b></p> <p>・ESDの視点で自ら思考し、判断することの意義と重要性を認識させることができる。</p> <p>各国の研修について、それぞれ事前事後のアンケート調査を実施した。それらの結果から、生徒は様々な環境問題についてしっかり学ぶことができたこと、また、これらの問題について継続的に学習し、得られた成果を多くの人々に伝える必要があることを認識できた。</p> <p>・地域固有の諸課題を地球規模で捉え、問題を発見する力や解決する力、また得られた内容を活用する力を養うことができる。</p> <p>各国の研修について、研修内容ごとに自由記述アンケートを実施した結果、「何よりも、持続可能な社会を作る事は、国別ではなくどの国もそろって取り組んでいかないといけない」といった意見が記されるなど、上記の項目について一定の成果が得られたと考える。</p> <p>・海外の生徒と徹底的に議論することによって、英語によるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を養うことができる。</p> <p>各国の研修について、研修全体から得られた総合的な自己評価を実施した結果、研修に参加した多くの生徒が、語学力の必要性和、意思疎通できたことの感動を示していた。また、学校設定科目「科学英語表現」で学習した内容を、実際のプレゼンテーションの場面で活用できたことを挙げていた。これらことから、上記の項目についての成果が得られたと判断できる。</p> <p><b>②開発する教育内容の深化・発展を図ることの成果</b></p> <p>各研究機関、行政機関等による指導、助言を得ることによって、開発する教育内容を深化・発展させることができた。また、運営指導委員をはじめとして、専門的な見地からの検証、評価を得ることができ、今後の事業をより一層充実させる機会を得ることができた。</p> <p><b>③組織的・継続的な教職員指導者育成、及び普及活動の成果</b></p> <p>広島県教育委員会と連携し、国際連携や科学技術系人材育成のための指導者の力量向上に貢献するための実務担当者会議を持ち、来年度の実施に向けて協議することができた。これらの取り組みに対し、運営指導委員から実施内容の改善を図るための指導・助言を得ることができた。</p> <p>上記項目全体に対する教職員の変容として、海外研修プログラムのプランニングから実施、事前事後指導等を行うことを通して、海外研修を進める手法を得ることができた。より多くの教職員がこの事業に参加し、学校全体としての取り組みにすることができる体制となった。</p>	
② 研究開発の課題	
<p><b>①定常的な海外連携による共同調査研究・発表・フィールドワークの実施の成果</b></p> <p>タイ研修は、タイ国内の政治的な不安定のため、実施を中止せざるを得なかった。今後、研修対象国選定等に関して慎重に対処する必要がある。その一方で、今年度の成果を取り入れ、タイをはじめとする各国における来年度のプログラムをより一層充実させるための取り組みを構築する必要がある。平成26年度は、訪問、訪日国を平成25年度と入れ替え、内容をさらに精査して実施する。</p> <p><b>②開発する教育内容の深化・発展を図ることの成果</b></p> <p>ESDの視点から取り組んだ様々なカリキュラム開発は、多方面の指導者、研究者による協力をより一層深め、これらの取り組みによって生徒の成長に資するものとなるよう改善する。</p> <p><b>③組織的・継続的な教職員指導者育成、及び普及活動の成果</b></p> <p>来年度は、協議の結果を具体的な取り組みとして実施する必要があるとともに、より一層の普及活動を行う。指導者育成によって、多くの教育現場に成果が普及できるよう、指導者育成のための実施内容の精選と充実を図る必要がある。</p>	